2016年5月9日の視点

生きていることの証は「成長していること」

●信条
仕事ではしっかりと結果を出す！
家族、プライベートを大切にする！
人との縁を大事にする！
自分のやりたいことにチャレンジする！

(株)個のサポーターズクラブ
ＦＢＬ大学学長
遠藤　一佳

●「生きているか」、「死んでいるか」の見分け方
こんにちは。遠藤です。前回の本コーナーでは「仕事だけの人生では楽しくないのではないか」と述べ、「おすすめ本」では「自分のための人生」を紹介しました。「仕事とは何か」、「家族とは何か」、「人生とは何か」についてほんの少しの時間でも考えていただけたでしょうか。この「考えること」をしなければ、自分の人生は権力が決めたように流れていきます。いつも言っている通り、世の中というのは「権力が支配しやすいようにできている」のです。私は世間でよく目にする「反権力」を声高に叫ぶような存在にはくれぐれもなりたくありませんが、この事実に目を向けて、意識してそこから脱するように自分を仕向けていくことは、非常に大切だと思っています。では、そのために個人が意識すべき観点は何か？前回の「おすすめ本」にシンプル、かつ、重要な表現がありました。それが「生きている花と死んでいる花の見分け方」です。その見分け方は「生きている花は成長している」ということです。これが「生きている唯一の証拠なのだ」と記されてました。または「サンゴと岩石の話」です。顕微鏡下で観察するとサンゴは成長し変化していますが、岩石は少しも変化しないそうです。サンゴは生きており、岩石は死んでいるからです。「当たり前だ」と思う方が多いかもしれませんが、私は「なるほどな」と納得しました。改めて「成長しないということは死んでいるのと同じなのだな」と思いました。では、フィットネス業界人（もちろん、一般社会人も）に目を向けたらどうなるのでしょうか。「私は成長している」と言い切れる人がどれだけいるのでしょうか。実体は会社に依存し「死んだも同然」の人が大多数だと私は思います。

●「どう飛んだか、どこを飛んだか」
では、この「成長」の中身について少し考えてみます。私が言うと実に意外かもしれませんが、皆さまはＡＫＢ４８の「３６５日の紙飛行機」という歌をご存知でしょうか。作詞は秋元康氏なので、特段、彼女等の人生観を表すものではないことを前提として記しますが、そこには以下の歌詞があります。
「人生は紙飛行機、願い乗せて飛んで行くよ、風の中を力の限りただ進むだけ、その距離を競うより、どう飛んだか、どこを飛んだのか、それが一番大切なんだ」
おそらく、多くの１０代、２０代の若者が共感しているはずです。繰り返しますが、ファン層は「ＡＫＢ４８の生き様だ」という点に共感しているのでしょうが、私は単純に「いい歌詞だ」と思います。「人生が紙飛行機」かどうかはわかりませんが、「距離を競うより、どう飛んだか、どこを飛んだのかが大切なんだ」とは、その通りだと思います。が、世間一般で評価されるのは「距離」です。会社規模、店舗数、売上などなど大勢の大人たちが「距離の競い合い」をしています。私からすれば、多くの社員はその犠牲になっています。会社や経営者の「距離の競い合い」に歯車として参加し、その献身性を管理され、評価されています。そして、気づいた時には「自分の人生」はどこかへ消え去ってしまい、「どう飛んだか、どこを飛んだか」など、まったくわからなくなってしまうのです。残念ながら、この歌詞に共感した若者たちも自身が社会に出て年齢を重なるうちに「かつての共感」が消え失せていくものと予想できます。そうです、「多くの現在の大人たち」がそうなっているようにです。私はこの感情の変化こそが最大の問題だと思っています。関連して「自分のための人生」には以下のような記載もありました。
「モチベーションとは成長しようとする欲求から生じる」
私はこれまで経営者が大好きな「モチベーション研修」について「無意味である」と一貫して言ってきました。その理由がこの一言に凝縮されています。口では「成長したい」というものの、日頃、読書もしない、新聞も読まない、社外勉強会にも行かないような人に「成長欲求」があるはずがなく、そのような人たちに何を言っても無駄だからです。人生は「自分がどこへ行きたいか」という強い意欲の有無で決まりです。それがなければ「死んだも同然」です。では、以下の質問の答えをアウトプットをしてから、次ページへ進んでください。

問１：あなたは「成長」していますか？　すなわち、生きていますか？

問２：あなたの「自分人生」をどのように飛びたいですか？　どこを飛びたいですか？

問３：もし「いいえ」がある場合、今後、具体的にどうしていきますか？

FBL Daigaku All Rights Reserved